

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

| | |
|------------------|-------------------|
| 平成 31 年 1 月 20 日 | |
| 所属部局・職 | 野生動物研究センター・修士課程学生 |
| 氏名 | 前田 玉青 |

| |
|--|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| 鹿児島県、屋久島 |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| 屋久島実習 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 2018/10/29-2018/11/09 |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| 京都大学野生動物研究センター: 杉浦秀樹 教授・鈴木崇文 氏・谷口晴香博士・ 京都大学霊長類研究所: 澤田玲子博士・本田剛章氏 北海道大学: 揚妻直樹 准教授・揚妻芳美 氏 |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由) |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| 本来実習は11月3日からでしたが、私は杉浦さんのトラップカメラ回収をお手伝いするために5日ほど早くから屋久島に入っていました。この五日間で、実習では行かないような山の奥まで立ち入ることができたのは良い経験になったと思います。土地の起伏が激しいことや、人が手を入れた歴史があることで、すこし歩くだけで林相が随分と変わり、とても面白かったです。また、私の行ったことのある奄美地方の亜熱帯森と、本土の照葉樹林、すこしずつどちらの要素もあって、いろいろと比較しながら歩くのは非常に楽しかったです。 |
| 実習は二つのコースに別れていましたが、両方とも二日ずつ実施したので、全員両方のことを体験することができました。前半のDNAコースでは、シカとサルの糞サンプルを集めました。サルはひらけた場所で毛づくろいをするときに糞をすることが多いため、路上に糞が多いのに対し、シカは路上では緊張するのか、ほとんど林の中でしか糞が見つからないという、行動特性の種差があり面白いなと思いました。 |
| ホルモン・音声解析コースでは、シカを30分間追跡して、ホルモン分析のための糞を回収し、また、その音声を録音してあとで解析しました。意外にも、シカが多様な音声コミュニケーションを用いることがわかりました。音声解析は初めての体験でしたが、耳で聞いた音の印象が、実際にソノグラムの波形として現れるのは見ていておもしろく、印象的でした。 |
| 実習の終わっただいぶ後ですが、奈良の東大寺に行った際、シカの声が、ヤクシカのそれとは若干異なっているように思えました。もちろん、体格が違うので音の高さが異なるだけなのかもしれませんが、チンパンジーが方言をもつように、シカにもそういった地域差が見られるのかについて気になりました。 |

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



Fig 2. ヤクザル



Fig 1. ヤクシカ

6. その他(特記事項など)

謝辞: 上記の講師のみなさまには現地で大変お世話になりました。ありがとうございました。また、このような機会を与えてくださった PWS に感謝いたします。